

# 「特集 Project Big Green ~ IT温暖化解決



日本アイ・ビー・エム株式会社  
最高顧問

**北城 恪太郎**

既に始まっている、京都議定書の約束期間  
地球環境問題に関する調査レポートが数多く発表されています。「IPCC(気候変動に関する政府間パネル)第3次報告書」によると、CO<sub>2</sub>などの温室効果ガスが現在のペースで増え続けた場合、1990年から2100年までの間に地球の平均地上気温は1.4~5.8 上昇すると予測されています。これによって異常気象や海面上昇なども引き起こされ、人々の生活に非常に大きな影響を与えるでしょう。また、地球温暖化問題に関して積極的な活動を続ける米国の前副大統領アル・ゴア氏に、2007年のノーベル平和賞が授与されました。地球環境についての関心は、世界中で高まっています。

日本はどうでしょうか。まず、京都議定書の目標を確実に達成することが地球温暖化対策の第一歩です。議定書で、日本は2008~2012年間の温室効果ガスの平均排出を、1990年と比べて6%削減すると国際的に約束しました。その約束期間が2008年1月から始まっています。これに対して、2006年速報値では逆に6%程度増えているという状況をご存じでしょうか。工場などの産業部門では、経営者の皆様の積極的な努力の結果、5~6%程度削減しました。しかし、事務所や家庭、交通・運輸などの部門では排出量が大幅に増加しています。企業も個人も、地球温暖化を防ぐために、今すぐ行動を開始する必要があります。

率先して新しいモデルを示すことは先進国の責務  
京都議定書の目標を達成するためには、多くの課題が指摘されています。企業に厳しい削減目標を課すことは、経済活動にマイナスの影響を与える可能性があるという意見があります。また、個人の生活にかかわる部分では、人々の価値観やライフ・スタイルを急に変え

# へのアプローチ ~ 」によせて

るのは困難かもしれません。しかし、地球環境が破壊されては、企業活動の継続や、豊かな個人生活はあり得ません。わたしたちは率先して省エネルギーに取り組み、地球環境保護と経済成長を両立させる、新しい社会のモデルを示し、世界中の国に京都議定書の目標達成への協力を呼び掛けていくのが、日本の責務ではないでしょうか。

毎年1月にスイスで開かれる世界経済フォーラム(ダボス会議)には、経済や政治、文化などの分野のリーダーが世界中から集まり、そこでも環境問題がしばしば取り上げられます。企業は効率的な経営をして利益を上げなければなりません、社会的責任を果たさなければ企業活動を継続することはできません。環境問題は、CSR( Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任 )の最も重要な取り組みの一つとして考えられています。

環境にかかわるイノベーションを日本の強みに  
京都議定書の目標達成のためにできることは、いろいろあります。省エネルギーの一環として提唱された「クールビズ」は、すっかり定着しました。「コンパクトシティー」は、街の中心部にいろいろな人たちが住むようにしたらどうかというアイデアです。移動には徒歩や自転車を多く使うことにより、車の使用を減らします。

また、企業や個人の行動を変えてもらうような啓蒙活動と、公的な規制とをうまく組み合わせると効果的です。オフィス・ビルやマンション、一般住宅などを建設する際の省エネルギー基準の達成を規制で求める。また、太陽光発電パネルによる自家発電も省エネルギー効果があります。発電して電力会社に売る電気の単価を、高く設定する。そのような政策や補助制度があれば、設置

する住宅ももっと増えます。こういった経済的なインセンティブで省エネルギーを促す仕組みを導入し、個人の合理的な行動を引き起こすメカニズムがあれば、さらに大きな温室効果ガスの排出削減が期待できます。

一方で、日本では米国よりガソリン代が高いため、燃費の優れた自動車を開発してきました。その技術の積み重ねが日本の国際競争力となり、最近のように原油価格が高くなると、燃費の良い日本車が世界中で人気を集めています。燃料コストが高いことが技術革新を促進している一例です。さまざまな分野で省エネルギーを進めながら生活を豊かにするイノベーションを起こしていけば、それが日本の持つ強みとなり、地球環境問題解決に貢献することができ、世界の中で日本の存在感を示すことにもつながります。

## 企業として、またITで環境問題に貢献

IBMは1971年に初めて環境ポリシーを制定して以来、数多くのグローバルな環境プログラムを実施してまいりました。また、環境保護にIT(情報技術)が貢献できることはたくさんあります。IBMでは2007年5月に、データセンターの電力消費や発熱量、温室効果ガスの排出削減を目指す「Project Big Green」を発表いたしました。

2008年7月に開催される北海道・洞爺湖サミットでは、地球環境問題が主要なテーマとして話し合われる予定です。日本は「美しい星50(クールアース50)」の中で、「世界全体の排出量を、現状から2050年までに半減」という世界共通の長期目標を提案しています。

Project Big Greenのソリューションが、地球環境問題解決に少しでも貢献できることを願ってやみません。